

3 命を感じて

(1) 命あるものを大切に

P.90~99

3-(1)

生命の尊さを感じ取り、命あるものを大切にします。

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである自他の生命を尊重する心を育てることと密接に関わる項目である。

本内容項目のページには、生命力あふれる躍動的な写真や人と人の触れ合いをイメージさせる写真、命の大切さを感じた出来事を書く欄などがあり、つながる生命を支え合う生命について感じたり考えたりすることができる内容になっている。

また、九十四・九十五ページの「命」の詩は、生命の尊さ、限りある生命について、考えを深めていくことができる内容になっている。

2 活用のポイント

中学年の段階では、誕生の話から生を受けたことすばらしさを感じたり、病気やけがのことから自分の生命の尊さを知ったりして、自分自身の命が、いかにかけがえないものであるかを感じ取らせるようにしたい。また、生き物を世話したときの経験などを基に、自分同様生命あるもの全てを大切にしようとする態度を育てていくようにしたい。

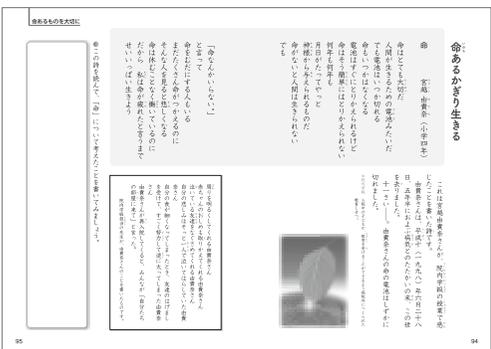
3 活用場面例

道徳の時間

九十四・九十五ページの「命」の詩を、道徳の時間の中心的な資料として活用し、生と死について考える。

事例

- ① 「命」の詩の中で、心に残った言葉を紹介し合う。
- ② 「命なんか知らない。」という人に、由貴奈さんは、どのような言葉を掛けるだろうか。
- ③ 由貴奈さんはどのような気持ちで毎日を過ごしていただろうか。
- ④ 「私は命が疲れたと言うまでせいっぱい生きよう」という由貴奈さんの言葉についてどのようなことを思うか。
- ⑤ 命について考えたことを九十五ページに書いて、グループで意見交流し、全体で発表する。



P.94~95

総合的な学習の時間

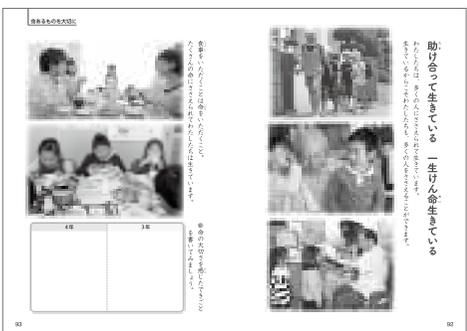
命をテーマにして、自己の生き方についての考えを深める学習を行うに当たって、九十二ページの写真を拡大して提示し、そこから課題を見付けることができる。探究的な学習となるよう十分な時間を充てる。

事例

- ① 九十・九十一ページを活用して、生きているとは、どういうことかと問い掛け、イメージマップに思いを書き出す。
- ② 九十二ページを活用して、共に生きるというテーマの下に、イメージマップに書き出したことを踏まえて、一人一人が命についての課題を見付ける。
- ③ 課題の中から、命について調べたいことを決めて計画



P.90~91



P.92~93

- ④ 調べたことを整理してまとめ、発表して意見交流する。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」の「キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」の指導に当たって、九十三ページを読んで、自分が生きていることは他の生命に支えられていることについて振り返り、自分の食生活について考えることができる。

事例

- ① 九十三ページを読んで、「食事をいただくことは命をいただくこと。」という言葉について、考えたことを話し合う。
- ② 「食事をいただくことは命をいただくこと。」という観点で、これまでの自分の食事について振り返って話し合う。
- ③ 今日の学習を基に、食事のときに気を付けていくことを考えて、自分の目標を立て、食生活の改善に取り組む。

家庭との連携

自分が誕生したときの家族の気持ちや成長の様子を家の人にインタビューする。九十から九十三ページの写真を家の人と一緒に見ること、インタビューのきっかけにしたり、対話を深めていく際の資料とする。

1 資料の特性

本資料は、生命の危機を感じる場所でありながら、自力では何もできないヒキガエルに、残酷な目を向ける子供たちと、自分も苦しい立場にありながら、ヒキガエルの命をなんとか助けようとするロバの姿が対比的に描かれている。

ロバの行動や、ロバの行動を見て立ち尽くす子供たちの思いについて考えさせ、生命あるものを大切にしようとする態度を育てることができ資料である。

2 指導上の留意点

事前に、日常生活における児童の動植物への接し方や飼育栽培の経験など生き物との関わりを把握しておきたい。

また、理科の授業における動植物の観察や飼育の経験から気付いたことや思ったことについて、学級全体で話し合うなどして、生命に対する関心を高め、本時で話し合う素地を整えておくことも考えられる。

3 展開例

【ねらい】

生命の尊さを感じ、生命あるものを大切にすることを育てる。

なことが。

事例②

ロバの行動を通して、生命を大切にすることについて考える展開

【主な学習】

①力を振り絞り、くぼみの中のヒキガエルを避けていったロバのことをどのよう思うか。

・優しい。自分も苦しいのに、どうしてそんなことができるのだろうか。

・生き物の命を大切に思っている。

②子供たちは、ロバの行動を見て、どのようなことに気付いたのだろうか。

・自分たちが面白がってしていたことは、生き物の命を奪うことになっていったんだ。

・ロバは、自分がつらい思いをしても、ヒキガエルの命を守ろうとしていてすごい。自分たちは、恥ずかしいことをしていた。

③生命を大切にするために、どのようなことを心掛けていきたいか。また、どのようなことが大切か。

・命は、人間にとっても動植物にとっても、たった一つしかないものだということを忘れないようにしたい。

・生きていることのすばらしさを実感していれば、自分、他の人、そして全ての生き物の生命を大切にしようと思う気持ちももてるのだと思う。

事例①

アドルフたちの思いを通して、生命の尊さについて考える展開

【主な学習】

①子供たちはどのような気持ちで石を投げていたのか。

・石を当てるのが面白い。

・ヒキガエルは、気持ち悪い。

どこかへ行つてほしい。

②ロバと荷車が近付いてきたとき、子供たちは何を考えただろうか。

・荷車にひかれるぞ。面白そう。どうなるのかな。

③必死でヒキガエルを避けようとしているロバを見て、子供たちはどのようなことを考えていたか。

・自分だって大変なのにヒキガエルの命を助けようとして、なんて優しいんだ。

・自分たちがしていたことは、ヒキガエルの命を奪うようなことだったんだ。

④ロバと荷車を見送っている子供たちは、どのようなことを思っていただろうか。

・恥ずかしいことをしてしまった。

⑤命の尊さを感じた出来事はあるか。それは、どのようなことか。



三の視点 重点ページ

たった一つの命 つながる命

1 このページの特徴

自他の生命を尊重することに関する重点ページである。詩「生きているって…」を読み、生きることの尊さやすばらしさを考えていくようにしたい。

P.100~101

2 活用事例

■道徳の時間

この詩を読んで、「生きているって…」の付点はどういうことかを話し合ったり、感じたことについて意見交流したりする。

■家庭との連携

この詩を読んで、感じたことについて家族で意見交流する。家の人の感想を、学校で紹介するなどして、生きていることについての様々な考えを知る。

■日常生活

朝の会や帰りの会などのときに、学級で音読するなどして活用することもできる。